

## 令和5年度第1回鳥取県西部保健医療圏地域保健医療協議会(健康づくり部会) (復命)

- 1 日 時 令和5年6月15日(木) 午後2時から3時30分まで
- 2 場 所 西部総合事務所米子保健所大会議室及び Web 開催
- 3 出席者 藤井所長、木村副所長、医薬・感染症対策課 森田課長補佐  
健康支援総務課 健康長寿担当 柴田補佐、森本歯科衛生士主任、坂本保健師  
天野委員、米田委員、遠藤委員、白根委員、青砥委員、森本委員、中崎委員  
(12人中7名出席)  
境港市、南部町、日吉津村、大山町、日南町 (オブザーバー)

### 4 概 要

#### (1)開会

##### ①保健所長挨拶

本日はご多忙中お集りいただき感謝する。健康づくりは様々な分野があるが、がん対策、食生活、運動、休養など、健康づくり全般にわたっての様々な取り組みについてご意見をお願いしたい。本日の会議は西部圏域に関する内容を中心としているが、県では今年度、がん対策推進計画、健康づくり文化創造プラン等も見直し予定であり、必要に応じて県への意見を伝えて、全県での取り組みに繋がっていけばと思う。

##### ②開会宣言、自己紹介

- ・委員12名中7名参加があり、県附属機関条例第5条(過半数以上の委員の出席)を満たし会議成立。
- ・各委員から自己紹介いただいた。

##### ③部会長・副部会長の選出

- ・天野委員が部会長、米田委員が副部会長に決定した。

#### (2)西部保健医療圏地域保健医療協議会について

資料1について説明(事務局説明)

#### (3)報告事項 第8次鳥取県保健医療計画の策定について

資料2について説明(事務局説明)

#### (4)協議事項 第7次鳥取県保健医療計画(西部保健医療圏地域保健医療計画)の評価について

資料3、4について説明(事務局説明)

#### <質疑応答・意見>

- 南部町:減塩について課題を感じており、特に若い世代への取り組みを検討したい。コロナ禍でがん検診受診率低下しており、普及啓発を再開したいと考えている。地元スーパーマーケットでのチラシ配布等を実施予定。
- 境港市:食育SAT(サット)システムを導入し、減塩事業等を進めている。
- 日吉津村:生活習慣病予防を課題に感じている。働き世代への働きかけに難しさを感じているが、啓発事業として小学生の出前講座や運動に関する啓発に積極的に取り組みたい。特に、コロナ禍で外出機会が減少しているので、運動する機会を作る取り組みをしたい。
- 日南町:コロナが5類に移行し、少しずつ事業を再開している状況。健診受診率の向上については、小学校の運動会で保護者向けに啓発する等していきたい。若い世代は、まだいいかなと思っている人もいるようだが、様々な会も再開されているので、地道に啓発していきたい。  
また、コロナ禍の影響で、歯科保健の関係も指導を中止していたこともあり気になっている。子ども園を回っているところだが、子どもへの支援について積極的に取り組み始めたところ。

## ○委員

- ・健康づくり応援施設食事分野について、「大盛り・小盛りを選べる」等のメニューがあるが、健康づくりにつながるのか疑問に思った。もう少し具体的に取り組んでいる施設を認定いたほうがいいのではないか。
- ・あるくとキャンペーンについて、景品に魅力がないと感じる。例えば、任天堂 DS、スイッチ等若い世代に魅力的な物にした方が、若者の参加を促されるのではないか。
- ・すべての事業において普及啓発は課題だと思うが、今の時代、SNS の活用が必須だと考える。イベント開催案内や、実施した研修会の内容をまとめて発信してはどうか。子育て中では外出が難しい場合もあるので、いつでも見られる配信があるのはありがたい。  
チラシ配布する場合は、チラシにQRコードをつければ、関連事業についても発信でき費用対効果もいいと思う。
- ・若者への減塩については、子どもに必要な塩分を摂取ができなくならないように注意が必要。

## ○委員

- ・ゲートキーパー研修の意味、飲酒状況の相談件数の計上方法について質問があった。  
→ (事務局)
  - ・ゲートキーパー研修は、身近な住民等周囲の方が、心が弱っている人に気づき、声をかけ合うような取り組みを推進する研修会で、専門家でなくても、話を聞いたり、声かけることが大事だということを出前講座でお伝えしている。
  - ・相談件数の計上については、一人の方が何回かリピーターのように相談にこられる場合もあり、相談者の延べ人数と相談実数を示している

## ○委員

- ・週1回集まって活動している。先日はプラントベースという、砂糖や小麦粉を使わない料理教室や、外遊びをやった。課題としては、雨の日やこれから暑い時期になるが、屋内で遊ぶ場所が少ないという声をよく聞く。  
→ (事務局) 体育館や公民館は誰でも活用できネット予約もできる。既存施設を活用するのもよいと思う。  
→ (委員) 体育館を使えることを知らない人も多いかもしれない。周知したい。

## ○委員

- ・各分野で「連携」というキーワードが出てくるが、環境調整等では、職域との連携が挙げられている。経済産業省が認定する「健康経営優良法人」に取り組むような企業は高い意識を持っており、普及啓発のための情報提供や研修会等、効率的に連携できるのではないか。  
→ (事務局) 県と協会けんぽでは健康経営を推進しており、全国的にも多くの事業所が手上げをしている。十分な連携が取れていないので、取り組んでいきたい。

## ○委員

- ・おいしいへるしい大作戦！やさいを食べよう事業やウォーキングの歩数等、東中西部の各圏域のデータがわかると、市町村も状況がわかりやすく取り組みを進めやすいと思う。

## ○委員

- ・職域におけるがん検診について、乳・子宮がん検診体制に課題があると記載されているが、自分も建設業者にいた時に、女性従業員が少なく、女性がんは会社負担がなく、自費で受けないといけなかった町の検診ではほぼ無料で受けられるものもあるが、職場での費用負担がなく、自費で受けるとなるとハードルが高いように感じる。  
→ (事務局) 職域で受けられないがん検診を市町村検診でカバーする取組がされている。  
(事務局) がん検診は、特定健診とは異なり、事業所の福利厚生の一環としてやっている状況。職場で受ける機会がない方は、市町村検診の対象となる。  
(日南町) 事業所での検診受診状況を町で把握するのは難しく、今年度、町内事業所に対して検診体制等に関するアンケート実施を検討している。健診大祭については、制度自体がわかりにくく、町民から質問を受けることもあるので、わかりやすい案内も必要だと考えている。

○委員

- ・食生活改善推進員を35年ほどやっているが、以前はメタボ予防、生活習慣予防中心だったが、フレイル対策や運動の推進に対策が変わってきたように感じる。
- ・健診すすめ隊でも活動しているが、コロナ禍で健診会場が集約されると行きにくい人もいる。その中で、例えば、乳がん検診は痛くないよという、地道な声掛けの大切さも感じている。高齢の方は、やはり一日でも長生きしたいと思っている。一人でも多くの方に健康増進してもらえる声掛けをしていきたい。

○部会長：女性の喫煙率が増加傾向ということだが、若い世代の喫煙が増えているのか。

→（事務局）年代別のデータを確認しておきたい。妊婦の喫煙率も0を達成できておらず、取組を進めたいと思っている。

○部会長：歯科保健のフッ化物洗口について、学校等での実施をする市内の判断はどのようにされているのか。コスト面での配慮はあるのか。

→（事務局）学校、保育所又は教育委員会から手あげをしてもらい、1年間のモデル期間は県が積極的に入らせていただいているが、翌年からは自前で継続していただくこととしている。学校も働き方改革等により踏み切れないというご意見も聞くが、西部圏域では、日野町がいち早く学齢期の取り組みを推進され、米子市も小学校で徐々に進めていただいている状況。

(4)閉会(保健所長挨拶)

- ・本日は皆様からたくさんのご意見をいただき感謝する。健康づくりは、各団体での取り組みだけでなく、日常生活の中で自ら取り組んでおられるものも関連しており、実践された中での具体的なお話もいただいた。今後も、ご自身での実践も踏まえた率直なご意見をいただきたい。

(5)会議後に提出された意見(6/20 FAX 受理)

- 委員：各地区で開催されている体操教室や運動教室について、男性限定の会を設けてはどうか。退職後の男性は、なかなか外に出ない人もおられ、運動不足が気になる。